

# 注目集める全国初の拠点施設(東浦町)

愛知県東浦町の健康複合施設「あいち健康プラザ」内に、今年4月開設された全国初の「あいち介護予防支援センター」(津下一代センター長)が効果を高める拠点として注目を集めている

## 愛知県

る。介護や認知症予防の施策を推進してきた公明党県議団(渡会克明団長)はこのほど、同センターを視察し、取り組み内容などを聞くとともに、意見交換を行った。

医師の津下センター長をはじめ、保健師、運動指導員らの6人で、それぞれ専門的な立場から、介護予防事業を行う市町村を支援している。具体的には、地域の健康づくりを進める担い手として同事業団が養成している「愛知県健康づく

## 地域リーダーを育成

同センターは、県から「愛知県健康づくり振興委託を受けた財団法人 事業団」が運営。職員は

りリーダー」を対象とした研修を実施。介護予防にかかわる知識や技術を習得してもらい、地域で介護予防を推進する「あいち介護リーダー」を育成する。併せて、認知症や高齢者虐待で適切な対応・支援ができる自治体職員などの養成も行っている。これまで209人の介護リーダーが誕生している。

また、同センターでは近くにある「国立長寿医療研究センター」や「認知症予防のための健康遊具を視察する愛知県議団のメンバー(右側7人)ら

# 介護予防で市町村を支援



近づく。また、同センターでは近くにある「国立長寿医療研究センター」や「認知症予防のための健康遊具を視察する愛知県議団のメンバー(右側7人)ら

## 党県議団が推進 高齢者虐待への対応も期待

知症介護研究・研修大府センター」などと連携した専門機関会議を設置し、より高度で効果的な事業プログラムの開発などを進めている。さらに、家族や環境などの要因が重なって対応が難しい認知症の人への事例や高齢者虐待への適切な対応事例を県内各地などから集め、地域包括支援センタースタッフや行政職員向けに事例集を作成していく。

津下センター長らによると、同センターでのリーダー育成の研修は順調に行われているが、介護予防に関する市町村間の対策の格差を解消するにはまだ時間が必要と指摘している。

渡会団長は、同センターの取り組みに期待を寄せた上で、「公明党が掲げる『新しい福祉』がめざすものと同じ。県の政策が充実するよう後押ししていきたい」と述べた。

党県議団はこれまで毎年の知事要望や議会質問を通じ、介護予防を含む高齢者福祉施策の充実を訴えてきた。